

## (内分泌、糖尿病内科)

本年度は大学から斎藤啓輔先生（昨年度から継続）土田大介先生に出張に来て頂き片桐 尚と3人で診療にあたりました。新患は火曜日は斎藤、木曜日は土田／片桐が担当し、大学から週1回金曜日の午前中に石澤正博先生、月曜日隔週で滝沢大輝先生に来て頂きました。

総再来数は1,998（滝沢 92、石澤 147、土田 417、斎藤 480、片桐 862 2022. 3月末）の状態です。

外来診療は2019年10月にリニューアルされた糖尿病センターのもと引き続き糖尿病外来と栄養指導外来、治療難渋例に対する診察前問診、看護外来を組み合わせ糖尿病患者の療養指導にあたりました。（糖尿病センター参照）

病棟においては、高血糖や合併症をもった糖尿病など緊急性の高い症例を西5F病棟にとって頂き、予定教育入院は東5病棟で運動療法もやりながらという体制を組み、両病棟で情報交換をしながら急性期を過ぎたケースを西5Fから東5Fに移しながら教育を継続しました。

甲状腺、内分泌疾患においては バセドウ病の難治例に対して積極的にアイソトープ治療を施行致しました。

原発性アルドステロン症の診断はアルドステロンが新しい測定系となり、施行錯誤をしながら取り組んでいる状態です。

コロナ禍もようやく開けてゆくものと期待され 引き続き地道に糖尿病患者さんの健康維持、合併症予防に力を注ぎ 地域医療に貢献しつつ また新たな取り組みができればと思います。

以下に臨床統計を示します。

(糖尿病関連)	6月の統計					
外来患者のHbA1c	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
5. 8%以下	308	371	312	256	307	337
5. 9－6. 9	574	668	540	525	498	534
7. 0－7. 9	398	385	347	357	355	316
8. 0－8. 9	225	196	216	189	190	197
9. 0－9. 9	97	85	87	75	80	75
10. 0－10. 9	53	37	33	34	22	32
11. 0－11. 9	12	19	12	10	13	6
12. 0以上	14	12	7	8	6	6
合計(人)	1681	1773	1554	1454	1471	1503
HbA1cの平均	7.13	6.99	7.04	7.06	6.97	6.94

(甲状腺関連)	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
甲状腺エコー	474	482	560	474	500	502
甲状腺細胞診	36	29	54	55	44	56
バセドウ病アイソトープ治療	1	2	3	1	5	5

(内分泌関連)	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ACTH負荷副腎静脈sampling	0	0	1	1	2	2